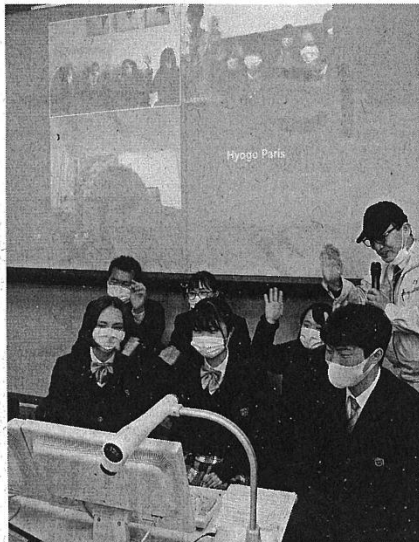


仏の高校と農業交流

篠山東雲高
食文化学が

海外校と初の連携

篠山東雲高校が、フランス中部の都市、サン・フルールにある農業高校「サン・ヴァンサン高校」(以下、サン高)と農業分野での交流を始めた。日仏両国が食を通じた交流や景観形成のノウハウの共有などを通じ、農業分野での関係強化を図る「アクションプラン」の一つ。日本からは9校、フランスからは7校の農業高校が参加している。東雲とサン高は、「食文化・写真展示」というテーマで、特産物を使った料理レシピの共同研究のほか、SNS(交流サイト)やオンラインなどを活用した交流を続けていく。東雲高によると、海外校との交流事業は2011年の創立以来、初の試み。(澁谷晃平)



オンラインで交流する東雲高とサン・ヴァンサン高の生徒たち=丹波篠山市福住で

両国の全参加校が参加のほど、初めて「1対1」したオンライン交流会が「」で交流。ウェブ会議ア

訳を務めた。東雲からは3年生5人、サン高からは2年生4人が参加。東雲高は学

校長が通訳を務めた。東雲からは3年生5人、サン高からは2年生4人が参加。東雲高は学

つこの類型などを英語で紹介した。サン高の生徒が東雲高に対して、丹波篠山市内の観光状況や、高温に対応可能な酒米品種「Hyogo Sake 85」を育てることに

校長は「今日は話ができてうれしかった。日本に行けるのをみんな今か今かと待っている。もしコロナが落ち着いたら会いに行きたい。みなさんも来てください」と呼びかけていた。

山東中出身は「フランスのことはあまり知らないのですが、どう取り組みをしているのか気になる。日本にはないフランス独自の農業文化を学んでいきたい」と話していた。

東雲高は「学校だけでは得られない刺激を得て視野を広げてほしい。世界を知ること地元の魅力の再発見にもつながるのでは」と期待している。東雲高は今後、交流事業に関わる生徒をさらに増やしていく考え。日本は、農業教育分野でフランスとの交流を進めており、2017年から農業高校の教諭と生徒の交流を行ってきた。19年6月には、両国の農業高校が共同研究や交流活動を行う「アクションプラン」を策定。同プラン

策定を前に、農林水産省が18年12月から2カ月間、日仏農業教育連携に向けたアクションプランに参加する農業高校を募っており、東雲高が参加を希望していた。両国の参加校がペアと産、介護などを学んでおる。テーマは▽農業の魅力、地元食材を使った食力発信▽SAKE▽景品も開発している。昨年観・造園▽有機農業▽グ度からは現2年生が日本語を学び始めているとい

丹波新聞
2021年4月15日